

令和7年度岡山県環境保健センター外部評価委員会評価結果の概要

1 外部評価委員会の概要

(1) 開催日時

令和7年9月9日(火) 13:30～16:30

(2) 開催場所

ピュアリティまきび「橘」(岡山市北区下石井2-6-41)

(3) 外部評価委員(出席者)

職名	氏名	備考
元岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 准教授	有元 佐賀恵	薬学
公認会計士	井上 信二	財務会計
岡山大学名誉教授・岡山県立大学名誉教授	沖 陽子	水域環境管理学
岡山大学 学術研究院 医歯薬学域教授	神田 秀幸	公衆衛生学
岡山商科大学 経済学部 教授	佐井 至道	経済学
環境省 中国四国地方環境事務所 所長	坂口 芳輝	環境行政
NPO法人岡山環境カウンセラー協会 事務局長	中平 徹也	NPO団体
新見公立大学 健康科学部 看護学科 特任教授	山田 雅夫	病原ウイルス学

(4) 評価対象

令和4～6年度に実施した試験研究成果(事後評価)

番号	課題名	担当
1	岡山県におけるPM2.5高濃度事象に関する研究	大気科
2	水環境中の医薬品及び生活関連物質(PPCPs)の実態把握に関する研究	水質科
3	児島湖の水質改善に向けた難分解性有機物等の実態把握に関する研究	
4	岡山県内で分離された感染症及び食中毒起因菌の病原性に関する研究	細菌科
5	ウイルス・リケッチア感染症の包括的流行疫学に関する研究	ウイルス科
6	食品の健康被害の防止に関する研究	衛生化学科

2 課題別の評価結果

【評価の凡例】

- 5点：著しい成果が得られた。
 4点：十分な成果が得られた。
 3点：一定の成果が得られた。
 2点：見込んだ成果を下回った。
 1点：成果が得られなかった。

(1) 岡山県におけるPM2.5高濃度事象に関する研究

(環境科学部大気科)

課題の概要	県内でPM2.5が高濃度となる要因を明らかにし、秋期の野焼きの状況とPM2.5の構成成分濃度等に係る知見を充実させ、環境基準達成率の改善に向けた県の施策推進の科学的根拠とする。							
評価結果	区 分		5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均
	目標達成度		1 人	4 人	3 人			3.8
	有効性	想定した効果	1 人	3 人	4 人			3.6
		それ以外の効果		7 人	1 人			3.9
	効率性 ・ 妥当性	費用対効果		7 人	1 人			3.9
		手法 ・計画		3 人	5 人			3.4
	成果の活用性 ・発展性		2 人	5 人	1 人			4.1
	総 合 評 価		2 人	5 人	1 人			4.1
助言 ・指摘 事項等	野焼きの影響がよくわかる研究で、営農者の協力を得やすいようデータが示されていると思う。 モニタリングは重要であり、測定データの解析の実施等、今後も継続した取組を期待する。							

(2) 水環境中の医薬品及び生活関連物質(PPCPs)の実態把握に関する研究
(環境科学部水質科)

課題の概要	PPCPSの一斉分析法を開発し、県内の河川中のPPCPsの分布及び濃度を明らかにするとともに、水生生物に対するリスクを評価する。							
評価結果	区 分		5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均
	目標達成度			4 人	4 人			3.5
	有効性	想定した効果		4 人	4 人			3.5
		それ以外の効果		4 人	3 人			3.6
	効率性 ・ 妥当性	費用対効果		8 人				4.0
		手法 ・計画	2 人	3 人	3 人			3.9
	成果の活用性 ・発展性		1 人	3 人	4 人			3.6
	総 合 評 価		1 人	4 人	3 人			3.8
助言 ・指摘 事項等	当初の計画の妥当性が確認され、一斉分析法を開発し、河川水中の存在状態を明らかにできたことは評価できる。研究の意義・展開について、より具体的にアピールするとともに、今後の応用的な発展を期待する。							

(3) 児島湖の水質改善に向けた難分解性有機物等の実態把握に関する研究
(環境科学部水質科)

課題の概要	児島湖の難分解性有機物等の実態を把握するため、児島湖に適した調査方法を確立し、難分解性有機物等の発生源の推定を行うことで、児島湖浄化施策の立案への科学的根拠とする。							
評価結果	区 分		5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均
	目標達成度			1 人	7 人			3.1
	有効性	想定した効果		5 人	3 人			3.6
		それ以外の効果		5 人	2 人			3.7
	効率性 ・ 妥当性	費用対効果		3 人	5 人			3.4
		手法 ・計画		3 人	5 人			3.4
	成果の活用性 ・発展性		1 人	4 人	3 人			3.8
	総 合 評 価			5 人	3 人			3.6
助言 ・指摘事項等	環境基準（COD）の値と同等レベルの難分解性有機物が存在し、土壌に由来することが示唆されたことは、次期湖沼水質保全計画の策定に役立つものと評価される。 フミン質様物質の由来が流入河川と湖底のどちらの寄与が大きいかわかることから、湖沼水質管理の大きな参考になり、解決の突破口になると思われるため、今後に期待したい。							

(4) 岡山県内で分離された感染症及び食中毒起因菌の病原性に関する研究
(保健科学部細菌科)

課題の概要	県内で発生頻度が高い腸管出血性大腸菌感染症及びレジオネラ症について、起因菌の菌株ごとの病原リスクを明らかにする。							
評価結果	区 分		5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均
	目標達成度			5 人	3 人			3.6
	有効性	想定した効果	1 人	4 人	3 人			3.8
		それ以外の効果		6 人	2 人			3.8
	効率性 ・ 妥当性	費用対効果		4 人	4 人			3.5
		手法 ・計画		4 人	4 人			3.5
	成果の活用性 ・発展性			7 人	1 人			3.9
	総 合 評 価			7 人	1 人			3.9
助言・指摘事項等	長期間かつ多数に及ぶ菌株の病原性調査については、通常業務を組み入れながら知見が得られていることを評価する。特に、今後の成果の発展につながるレジオネラの薬剤感受性に関する成果は高く評価する。 今後、耐性菌の傾向と対策については関心が高まると思われるため、専門家集団へのアピールも含め、詳細検討の社会的意義は大きい。							

(5) ウイルス・リケッチア感染症の包括的流行疫学に関する研究

(保健科学部ウイルス科)

課題の概要	検査の効率化により、感染症の原因ウイルスの特定効率を向上するとともに、地域全体の病原体の分布を把握・解析し、感染症の流行拡大防止や発生防止の一助とする。							
評価結果	区 分		5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均
	目標達成度			5 人	3 人			3.6
	有効性	想定した効果	1 人	4 人	3 人			3.8
		それ以外の効果		7 人				4.0
	効率性・妥当性	費用対効果		4 人	4 人			3.5
		手法・計画		5 人	3 人			3.6
	成果の活用性・発展性		2 人	5 人	1 人			4.1
	総 合 評 価		1 人	6 人	1 人			4.0
助言・指摘事項等	下水サーベイランスにおいて、エンテロウイルスを個別に分離可能な方法を確立するなど目標を上回って達成している。また、マダニに関しては、全国的にも先行研究を実施しており、高く評価する。さらに、以前よりも学術発表を大切にしている点についても評価できる。 今後、なお一層、専門家集団へのアピールを行うとともに、確立した分析法を継承できるよう努めていただきたい。							

(6) 食品の健康被害の防止に関する研究

(保健科学部衛生化学科)

課題の概要	① ふき取り検査によるアレルギーの目視化及び洗浄に関する研究 調理場でのアレルギーの存在状況を確認するとともに、アレルギーのコンタミネーションを防止するための効果的な予防・洗浄方法を検討する。 ② 自然毒の分析技術の開発 キノコ中の植物性自然毒の分析法を開発し、キノコによる食中毒発生時に迅速に対応できる体制を整備する。							
評価結果	区 分		5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均
	目標達成度			1 人	7 人			3.1
	有効性	想定した効果		3 人	5 人			3.4
		それ以外の効果		6 人	1 人			3.9
	効率性・妥当性	費用対効果		4 人	4 人			3.5
		手法・計画		3 人	5 人			3.4
	成果の活用性・発展性			4 人	4 人			3.5
	総合評価			4 人	4 人			3.5
助言・指摘事項等	身近な食生活において生じる食品の健康被害の防止として、効果的なアレルギーの洗浄方法の研究や自然毒による食中毒の原因究明に資する検査法の開発は、公的機関が行うべき実践的な研究と評価する。 今後、本研究結果の普及・啓発を行うとともに、今回できなかったアレルギーの目視化についても次の一手を考えてください。							

3 その他助言事項等

全ての研究において、人材投入や経費が少ないにもかかわらず、計画どおり実施され、各々目標は達成されていることを評価するとともに、いずれの研究も県民生活に密着していて興味深いデータが得られており、価値ある試験研究が進められていると考える。

一方で、一般県民への周知や外部への発信が十分ではないと感じることから、県民への情報発信、啓発、広報により注力するとともに、学会発表・論文公開等、外部への発信も積極的に行っていただきたい。

また、各研究におけるデータを一層蓄積することで、より意義が大きくなる可能性を感じることから、他の研究機関とも情報共有の上、全国的なデータを集積し、研究成果としてさらなる価値を出すことを期待する。

さらに、国や大学等との共同研究に発展させると、外部資金等の確保にもつながると考える。

今後も LC/MS 等の分析技術が継承されるよう適切な人事異動に取り組まれるとともに、施設・設備のメンテナンス等に必要な経費を確保していただきたい。